

# あいさつとしての「叫人」発話について

内 藤 敬 子

## はじめに

本稿は、〈「叫人（喊人）」という言葉で促され実行される行為〉がひとつの挨拶の形式であるということ、またこの〈「叫人（喊人）」という言葉で促される行為〉と、それに類似する〈用もないのに目の前にいる（もしくは目の前にやって来た）人の名前や親族称谓また社会称谓①を呼びかける行動〉がどのように行われるのかについて、中国、台湾・香港（国語版）のテレビドラマについて集計した用例を中心に考察するものである。

## I 「叫人（喊人）」とは

中国人との交流で直接中国人の日常に触れたり、また中国や台湾・香港などの映画やテレビドラマなど日常を描写したものをしていると、出会い頭の場面すなわち日本語の環境であれば「こんにちは」「お帰りなさい」「ただいま」等の決まった語句であいさつするような場面で、我々中国語学習者が中国語のあいさつとして最初に学習する「你好」や「回来了」なども使用されることはされているが、使用されない場面が多く見られる。それは相手の名前または親族称谓や社会称谓などを呼びかけたり、特に用もないのに目の前にいる（もしくは目の前にやって来た）人の名前や親族称谓また社会称谓を呼んでそのまま通り過ぎたり、また言われた（呼ばれた）対象は返事を返したり返さなかったりし、それを動作の主体（相手の名前や親族称谓また社会称谓を発話した本人発話者）もさして気に留めないという、日本人である我々の目には奇妙に映る行動（発話）である。

- (1) 母(李潤善): “多歡, 詠琴的母親從印尼來看她, 快點 叫人”

娘(李多歡): “是嗎? 陳媽媽”

陳詠琴の母(胡美蘭): “哇, 長得真標緻...”

【真I・16】

- (2) 容向海: “來, 小君, 叫阿姨”

娘(小君): “阿姨”

劉清雲: “乖”

【真II・18】

(3) 李添福：“又來炫耀，少爺（李添安）？”

Joan：“伯父、伯母、容姨、大勝哥、海哥、福哥”

李添安：“你們好像很忙似的”

【真Ⅱ・33】

例えば、(1)～(3)等に見られる、このまま活字で見た場合場面の状況説明(語用的な情報)がないと「登場人物それぞれの発話がどのように行われたのか」が解りづらく、また場面の状況説明(つまり、それぞれの対話が出会い頭に行われ且つ言葉を発している人物以外の台詞中に登場する称谓語・人名に当たる人物すべてが一同に会している、という状況説明)があっても、発話する事により生じる効果が明確ではない太字で示した部分の発話行為を、“叫人”“叫○○(名前或いは親族・社会称谓語)”という言葉で促されて実現される例が多く見られたことから、この□で示した命令文を“叫人”と“叫○○”を包括して「叫人(喊人②)」と呼び、また「叫人(喊人)」に促されて行われる行為を「叫人(喊人)」発話と呼ぶことにした。なお、この対象となる用例を中国、台湾・香港(国語版)のテレビドラマ③について集計したところ、のべ195例(一つのあいさつの場面で双方が共に上記用例と同じ形式であいさつした場合は2例にカウント。また一人が複数にあいさつした場合もその人数分をカウントした。なお、「你好」はのべ104例)抽出された。以下、これらの用例についてその他に抽出された例もあわせて考察していく。

## Ⅱ 「叫人(喊人)」の意味

Iで示した(1)～(3)の例は、すべて言葉を発する人物と共に台詞中に登場する称谓語・人名に当たる人物すべてが一同に会している、という状況のもとで対話が行われている。詳述すると以下の通りとなる。

(1)の場合：母(梁潤善)と、娘が結婚したことを知り初めて娘の婚家を訪れた陳詠琴の母(胡美蘭)が、リビングで話しているところに母(梁潤善)の娘(李多歡)が帰宅する。娘は出張帰りで疲れており、話し中の母たちには目もくれずソファの空いているところ(陳詠琴の母(胡美蘭)のすぐ隣)に座り込む。座るとすぐに母(梁潤善)が“多歡，詠琴的母親從印尼來看她，快點□叫人”と言い、娘は“是嗎？”と言いつつ改めて隣の人物の方をまっすぐ見ながら“陳媽媽”と言う。これを受けて陳詠琴の母(胡美蘭)は娘(李多歡)を見ながら“哇，長的真標緻…”と感嘆して見せる。

(2)の場合：容向海が恋人の娘(小君)を連れてスーパーで買い物をしているところに偶然を装った劉清雲(容向海の恋人の姪の小姑娘)に出くわし、劉清雲：“這麼巧”，容向海：“是呀”と二言三言会話した後に、劉清雲がはじめて容向海の連れている子供に目を向け、“這個一定是小君了”と言う。容向海は“是呀”と答えながら小君を抱き上げて“來，小君，□阿姨”と言

い、娘(小君)が劉清雲の方を向いて“阿姨”と言うと、今度は劉清雲が娘(小君)に対して“誰”と答える。

(3)の場合：恋人Joanと従妹小君を連れて遊びに行っていた李添安が父母と兄が経営している店に恋人Joanと従妹小君を連れて帰ってくる。賑やかな店内の父達の話聞きつけて、李添安“誰説我們一雙雙一對對？”と言いながら入っていき、兄の李添福が“又來炫耀，少爺(李添安)？”と言葉を返す。続いて小君の手を引いたJoanが店内に入りながら、カウンター付近で会話に加わっている李添安の父母，兄，従業員達に向けて“伯父、伯母、容姨、大勝哥、海哥、福哥”と言いながら、それらの人々の間をすり抜けて会話には加わず、小君を連れて奥へと入って行く。Joanと小君をやり過ごして、李添安は兄に答える“你們好像很忙似的”。

これらの点から先ずは(1)~(3)の場面はそれぞれ違った場面ではあるが、初対面であるかないにかかわらず「対象の存在を認知した時」という状況については同じである、ということが言えよう。

(1)と(2)はそれぞれ(1)「叫人」(2)「叫阿姨」と言う命令文に促されて(1)「陳媽媽」(2)「阿姨」の発話が為されている(用例(3)についてはⅢで考察する)。場面を考慮に入れず、辞書どおりの意味で解釈しようとする(1)「叫人」はi「人を呼びなさい」もしくはii「人にさせなさい(何がしかの行動を人にさせる)」(2)「叫阿姨」はi「おばさんを呼びなさい」或いは「おばさんと呼びなさい」、ii「おばさんにさせなさい(何がしかの行動をおばさんにさせる)」という訳出が想定される。

但し動詞「叫」が各i「…と呼ぶ」の動詞の意味になるためには「我叫她阿姨」というように二重目的語が必要であり、また各ii「…させる」という動詞の意味になるためには「我叫他做事」のように兼語式にならなければならない、という点において適当ではない。(1)(2)のiに関して、(2)iの「叫阿姨」についてはわずかに中国語大辞典[叫]語釈②-1)にのみ「親族称呼などを客語として伴う〈~阿姨!〉おばさんにごあいさつしなさい;あいさつする者にとっておばさんと呼ぶほどの年齢でなくても、一つ上の世代にあたる呼び方を用いて、子供に敬意をこめさせる」とあり、この二重目的語を伴っていない「叫阿姨」つまり「叫〇〇(名前或いは親族・社会称谓語)」は「~にごあいさつしなさい」と訳出することが可能であると考えられる。(1)「叫人」のような目的語を「人」に限定した形式の句(もしくは個人名、称谓語)については、前述の中国語大辞典に[叫人不折本](諺)の語釈で「(‘舌头滚一滚’と続き)人にあいさつしても損はしない、ただ舌をくるっと回すだけのことだ」という記述があり、太字で示している部分の訳語が「叫人」部分の訳に相当すると考えられるが、その他管見に及んだ何れの辞典④にもその記載はない。また、「叫人」あるいは「叫+人」の語のつながりが出現するテキストではたいてい、「你

女兒挺機靈的。聰明伶俐，最喜歡[叫人]猜謎語了」【真Ⅱ・2】や「后面那个張哲宇的[叫人]托我拿給你的，你赶快打开来看看！」【小説『點名要妳當老婆』】などの様に、「～させる」と訳出される例に集約される。しかし、管見の範囲であるが『日語口語辭典にほんごこうごじてん』⑤や小説『京華烟云』中にも「木兰正式[叫了一声]“舅媽”」のように(1), (2)に類似する表現があり、その表現を日本語翻訳版では「～挨拶した」と訳出している⑥。更に以下の例は「[叫人]」または「[叫+人]」が「あいさつする」と訳出可能であることを裏付けていると考えられる。

(4)私立小学校入試の面接の練習。受験する子供2人がリビングの中央に立たされ、曾祖父母と子供の父親(一人)がソファに座り面接官役をやっている。男の子の方の母親はずっと曾祖父母達の後ろで合図をしている。

母親：“來”，子供2人：“……(無言)”

母親：“[叫人]呀” 男の子：“太公，太婆(曾おじいちゃん、曾おばあちゃん)”

母親：“不是太公太婆，傻瓜”

女の子：“Good morning Sir. Good morning Madam.” 【真Ⅰ・33】

(5)姉妹が友人の家を訪ねて：

家の人(複数)；“來，坐，坐” 姉、妹(同時に)；“謝謝！謝謝！”

姉(座らずに妹に)；“Joan, [叫人]呀” 妹；“伯父，伯母，大家好！你好！”

家の主人；“坐，坐”

【真Ⅱ・20】

また、(2)「[叫阿姨]」についても同様に、

(6)母親が(知り合ったばかりの)老紳士を自宅の二階に案内し、部屋にいた娘海燕に声をかける：

母：“海燕，叫爷爷” 海燕：“爷爷好！” 【老・1】

この例(5), (6)では、命令形で発話される“叫人” “叫○○(名前或いは親族・社会称谓語)”で要求された内容(行為)を、被命令者である女の子と妹の発話から明確に見てとることができる。この点から単独で用いられる(その他の目的語などの要素がつかない)“叫人” “叫○○(名前或いは親族・社会称谓語)”の内容は「ごあいさつしなさい」という意味を示していると言えるのではないだろうか。

### Ⅲ 「叫人(喊人)」発話によるあいさつ

Iで挙げた(3)の例について、先ず用例中の太字部分の発話による効果が「あいさつ」であることについて相原(2000)⑦，木村(1996)⑧，安井(2000)⑨らがそれぞれ「相手の名前や親族称呼を呼びかけること自体が挨拶になる」と言及していることを述べておく。

(3)の例では、発話を行っている3人の人物を含めて10人の人物が登場する。この場面でJoanという女性が発話する“伯父、伯母、容姨、大勝哥、海哥、福哥”という称呼の羅列は、このまま文字化されたものを見ただけでは具体的にどのような効果を目的にして発せられているのかが解りにくい。またこの場面(例(3))での対象の反応であるが、この場面ではく“哎”と返事を返す)、く頷く)、く少し手を振る)、く無反応)またはくチラリと一瞥するのみ)<sup>⑩</sup>、と多様な反応が見られた。しかし例(2)のような、この対話が行われる以前に別の場所で互いに親戚同士であることを知らないままに接触し(食堂で対象者・陳詠琴の母:胡美蘭が大声で自分自身の娘とその婚家の話をしている時、発話者(娘:李多歡)の友人と対象者の友人が喫煙のことで不愉快なやり取りをした)、身の上を詐称して娘の婚家を訪れていた対象者が、発話者がその家の娘であったことに驚き、事前の接触で詐称の内幕を知られていることに慌て、それを取り繕いながら答える等は、比較的特殊な状況のもとで発せられた返答であり、抽出された用例の中でも最も例外的な例である。

日本語の環境からみて、名前や称呼(ここでは親族称呼、社会称呼及び姓名ではないあだ名などのすべてを含める；以下“称呼”と表記する)の単独での発話は《用があつて話しかける》、《対話をしたくて話しかける》、《相手の名を確認する》、《出会うはずのない場所で不意に会って「あら、〇〇さんじゃないの！」というような内容で言う時や見られたくないところを見つかった時に言うものなどの、《驚きを込めて発する》、《対話中に対象の注意をひきつけるために発する》、《視野範囲内で比較的遠い位置にいる知り合いを見つけたときに発する》、《対象に危険が近づいた時、もしくは危険に陥った時に対象に注意を促す》などの場合に行われることが想定される。そして、これらの効果を目的として発話される称呼はそれぞれ特有の語気をもって発話される。管見の限りでは中国語の環境における上記の《 》に示したどの場面でも、ほぼ日本語と同様な語気を帯びて発話されているが、例(3)の“伯父、伯母、容姨、大勝哥、海哥、福哥”は視覚的に確認した上でも、それらのどの場面にも類似せず、またそれらの何れの語気をも帯びていず、どちらかと言えば対象個々の顔を見ながら少々丁寧に点呼している感覚に近いと言え、明らかに下記(7)の例とは違った語気を帯びている。

(7)医師・林寒冰が出勤して、自分の診察室に向かう途中、看護婦、同僚、研修生とすれ違う：  
(すれ違いながら看護婦たちに) 林寒冰；“你们好！（廊下を曲がり、偶然やってきた教え子に立ち止まって）哎！伊俚！（伊俚を目で追いながらすぐ次のことばを言う）” 伊俚(林の発話とほぼ同時に)；“哎，林老師！”（通り過ぎていく。その背中に向かって）林寒冰；“通知大家，马上查房啊！”

【罪・4】

この「哎伊哩」は「哎，林老師！」とは違い、視覚的にも場面状況から見ても判別が難しい。しかし、語気としては登場人物・伊哩が発した「哎，林老師！」よりもやや強く、特に「哎」の部分が間投詞としての語気を強く帯びている点と、間を置かずに“通知大家，马上查房啊！”とあるところから《用があって話しかける》目的で発話されたものだと考えられる。

また他の用例についても、上述の例と同様に視覚的な確認も含めて抽出したが、点呼しているような語気で発せられていたり、言葉を覚える時期にある乳幼児が無目的に人の名を言ってみたりする(対象の方を一瞥しただけで独り言のようにつぶやく例を含む)と同様の宙に浮いた感覚のある語調で発話されるものが多い。

そして、この種の発話への返答例としては前項〈 〉で示した例に含めて(2)で見られた「乖」の他に、以下のような返答例が比較的多く見られた。

◎「你好」又はそれに類似する形での返答

(8)三姑と呼ばれる近所のおばさんがメイドを紹介している：

三姑；“我來介紹，梁先生梁太太，這個就是我說的阿芬了”

阿芬（近寄りながら）；“先生，太太” 梁；“你好！”

梁夫人；“你就是芬姐，是嗎？” 阿芬；“是呀” 【真Ⅲ・7】

(9)病院で医者が回診をする。：

（医者が病室(大部屋)に入っていくと、口々に）患者達；“林主任”

林醫師；“你們好！” 【罪・15】

◎「来」等と言いながら「椅子をすすめる」などの動作を伴った形での返答

⑩娘とその姑と小姑は娘の実家の家族との飲茶の約束に遅れて到着する：

娘；“外公，外婆，爸，媽” 祖父，父，母（席を勧めながら）；“來了，來了…”

【真Ⅱ・25】

(11)李云芳が張大民の母に結婚の報告をするために、張家を訪ねる：

大民（外で呼ばれるのを待っている云芳に）；“云芳，你进来吧。咱该开始了”

（云芳の姿が入り口に見えるとすぐ）大民の母；“云芳，来”

云芳（入りながら）；“大妈，大雪，大雨（大雪と大雨は大民の妹）”

大雪（椅子を差し出しながら）；“坐吧” 【貧・2】

(12)張大民がケンカをして実家に帰った李云芳を訪ねる。実家には父母の他に李云芳の姉も帰っている：

（家に入って云芳の様子を窺ってから）大民；“爸，媽”

云芳の母；“大民来啦” 大民；“姐也在呐，……(省略)” 【貧・10】

◎お互いに呼び合う形での返答(すぐに対話へと発展しない)

(13)祖母(李太太)が幼稚園に孫(樂樂)を迎えに行く。孫は陳先生と手を繋いで出てくる。：

樂樂；“奶奶” 祖母；“樂樂” 陳先生；“李太太” 祖母；“陳老師”

(暫く二人で一緒に樂樂の手を牽いて歩いてから、急に思い出したように祖母に向かって)

陳先生；“樂樂今天很乖…(省略)” 【真I・10】

(14)大民の母が失踪し大雨(大民の妹)が家で電話番をしているところに、李云芳の母が交代しに来る：

大雨；“大妈” 云芳の母；“大雨” (対話をせずしばらくそれぞれ自分がやることをしている) 大雨(帰り支度を整えてから)；“您呐听着……(省略)” 【貧・14】

(15)丁兆龍(警察官)が事件の参考人である羅培石(会社社長)を訪ねる。羅は丁度電話中で、丁に身振りで椅子を勧める。丁は座って待つ：

(羅が電話を切るとすぐ) 丁兆龍；“罗总啊” 羅培石；“唉，小丁”

(一呼吸間があって) 丁兆龍；“生意做得挺大” 羅培石；“咳，瞎忙瞎忙” 【罪・9】

また、この形式の発話での対象者の反応例中で〈無反応〉、〈チラリと一瞥するのみ〉の反応に対して発話者が気分を害したりするような例はなく、逆に発話を行った人物が対象者の返事を待たずに歩き去ってしまう例(例文(3))が比較的多く見られた。⑩

更に、この種の発話があいさつとしての機能を持ち得ることを示唆する場面である例(4),(5)に類似する例としては以下の例が挙げられる

(16)普段から夫の叔父が、タイミングのよい時に家にきていることを知って：

妻(夫に)：“是你叫他来的？” 夫：“来看外婆的嘛，快去招呼客人，去…”

(夫に背を押され仕方なく) 妻：“舅舅” 叔父：“…(返事なし)” 【真I・21】

(17)飲茶の店で祖父達と合流した孫夫婦、席について茶を注ぐ：

孫の妻(夫のひざに座っている息子に)；“樂樂，來了這麼久還沒有叫聲太公呢”

夫：“是呀，來，叫聲太公” 樂樂：“太公” 祖父(太公)：“乖” 【真I・32】

(18)別居中の夫婦を仲直りさせようと、その母と姉夫婦が飲茶で2人を引き合わせる：

(遅れてきた) 夫(弟)：“姐夫，姐姐，媽” 義兄：“坐，坐…(椅子を勧める)”

(弟が椅子に落ち着くまで待ってから) 姉：“你都跟我們打過招呼了，沒看你老婆也在坐？”

夫(弟)：“約我出來擺起龍門陣，有話就說” 【真II・12】

これらはそれぞれの「叫人(喊人)」発話すなわち呼称直示による発話を、IIの(4),(5)とは反

対に「招呼」「叫聲○○」「打過招呼了」の「あいさつする」という意味を持つことばで表現しており、「呼称直示による発話があいさつに相当する」と結論付けるための有力な手がかりであると言える。またわずかではあるが“叫人”と似た構造と意味を持つと考えられる用例も見られた。

(19)娘とその息子(樂樂)が娘の生みの母親の所へ探し物に行く。丁度結拜の姉妹(麗)と帰ってきた母が孫にあいさつさせる：

母；“快叫麗奶奶” 樂樂：“麗奶奶” 麗：“真的好可愛，來，我抱抱”

(樂樂を取り返しながら)娘：“樂樂，過來！”

麗(怒って強い口調で)：“幾年沒見面，連叫都不叫我了？” 【真I・16】

(20)母が友人と経営する食堂にその娘と孫・樂樂が訪ねていく：

(到着してすぐ、樂樂に)母；“來，過來”(樂樂、祖母の下へ行く)母；“對了，叫我”

樂樂；“外婆” 母(菓子の袋を開けながら)；“來，外婆給你吃” 【真I・24】

(21)四年ぶりに帰省した張大民の弟・大国。家族に囲まれて食事をしていて、ふと甥に目を止める：

大国；“叫叔叔” 甥；“…” 大国；“这孩子怎麼不叫我？”

大民；“他谁都不叫” 【貧・12】

(22)大志が家に帰って来ると、リビングで従姉の子供・小榮と大志の父がテレビゲームに興じている：

大志：“喂，小榮，快叫我” 小榮：“表舅舅” 大志(満足げに)：“嗯” 【廉・6】

全体でわずかこの4例のみであったが、各ゴシック体で表記されている部分がそれにあたる。動詞「叫」の目的語が「我」という個に限定される代名詞(正確には人称代名詞であるが、この用例の場合は指示的代名詞であるとも言えよう)であると考えられ、このテキストが命令文で発話されたことにより実現されるあいさつの効果の及ぶ範囲が個に限定されるため、不特定の「人」を目的語にとっている「叫人」とは用途において大きく異なるものであると考えられる。これら(19)、(21)の場面状況ではどちらも「叫しないことに対する追求」の語気があり、「(私に)あいさつする」という訳語が適当であると考えられるが、(20)、(22)の用例では「(私に)あいさつする」でも「(私を)呼ぶ」でもどちらでも意味が通り、どちらの訳語に受け取るのかで大きく意味合いが違ってくる。但し、(1)~(18)の例で解釈してきた内容も考慮に入れた上で場面の状況を見ると、これらの「叫」する行為がただの「呼ぶ」行為よりもより重要視される度合いが高いことが言え、その重要性を実現する力点は「特定の人を特定の称呼に認識していることをもっともアピール」する点、すなわち「名前や称呼の直示」(「叫人(喊人)」発話)の方にあると言えよう。そして、Ⅱで



考察した、「叫人」“叫〇〇(名前或いは親族・社会称谓語)”の内容は「ごあいさつしなさい」という意味を示している」という点からみても、この命令文を受けて実現されるあいさつが「叫人(喊人)」発話、すなわち「名前や称呼の直示」であるならば、当Ⅲの冒頭3段落目で《 》に示した語気を帯びないという条件、必ずしも対象者の反応を強要するものでないという条件、および発話者と被対象者が一同に会している状態という語用的条件の基に、一見無目的に発話される「相手の名前や親族・社会称谓の直示」行為は確かにあいさつ行為であるといえるであろう。

#### Ⅳ 「叫人(喊人)」発話が多用される場面、及びその対象

以上のⅠ～Ⅲまでで中国人の日常を反映した資料について、客観的にはあるが「叫人(喊人)」発話をすることにより実現される効果が「あいさつ」であることが見出された。その最大の特徴としては親族称呼や社会称呼の応用、必ずしも対象の返事を期待して発話されるのではないということが挙げられる。

では、「叫人(喊人)」発話は主にどのような場面、対象者に対して行われるのか。更に明確に把握するために、資料の内容を考慮した上で見出される人間関係に基づき、また血縁的親疎、世代的上下関係や年齢的上下関係、社会的地位上の上下関係をも考慮に入れ、全体でのべ195例(一つのあいさつの場面で双方が共に上記用例と同じ形式であいさつした場合は2例にカウント。また一人が複数にあいさつした場合もその人数分をカウントした)抽出された例を発話者からみた視点で以下のA、Bの諸項目について分類を試みた。また、「叫人(喊人)」発話との対比として、日本の中国語学習者にとっては最も一般的なあいさつであると考えられる「你好」⑪(のべ105例)についても集計した。

##### A. 日常生活上の関係

1. 生活を共にする家族(主に宗親を基礎とする血縁関係)
2. 生活を共にしない親族(同居でない宗親, 外親, 内親)⑫
3. 友人
4. 恋人
5. 義家族(「結拜」による義理の家族, また血縁関係や姻戚関係にはないが家族同然であると認識されている同居人)
6. 知り合い(近所づきあい, 家族ぐるみの友人, 家族の友人, 友人の家族)
7. 全くの初対面(紹介によるものでも, まだ関係が築かれていない初対面)

※それぞれ1, 2, 5, 6, 7はa「発話者⇒年長者」, b「発話者⇒同じ年代同世代」, c「発話者⇒年少者へ」とし、また3, 4は区別なしとして集計

B. 社会生活上の関係

1. 同僚A (同じステイタス、同僚であってもステイタスの上下関係と長幼の序が不明なものはeにカウント)
2. 同僚B (対象が直属の上司、または生徒から見た学校の先生)
3. 同僚C (対象が直属の部下)
4. 同僚D (対象が直属でない上司)
5. 同僚E (対象が直属でない部下)
6. 取引相手A (金銭的な利害関係が発生する依頼者と被依頼者ex:社長と従業員、主人と召使い等、絶対的な上下関係)
7. 取引相手B (金銭的な利害関係が直接発生しない関係ex:警察官と参考人、学校の先生と生徒の保護者等、上下関係が曖昧な関係)

※それぞれ d「動作の主体⇒年長者」 e「動作の主体⇒年少者」とし、絶対的上下関係にある6の場合は d「動作の主体⇒主」 e「動作の主体⇒従」にむかって行われたものを集計

①各項目毎の総計による対比

A. 日常生活	1	2	3	4	5	6	7	合計
Jiaoren	45	44	3	2	19	39	13	165
Nihao	0	2	2	1	2	21	22	50

B. 社会生活	1	2	3	4	5	6	7	合計
Jiaoren	4	4	1	3	1	8	9	30
Nihao	3	3	0	6	0	23	20	55

これら各①、②のそれぞれA、Bの表全体を通して、先ず「叫人(喊人)」発話はほぼ目下の者(年少者及び金銭的な力関係などにおいて立場上弱い者)から行われており、「你好」はA、Bのどちらにおいても項目7以外にはほぼ大きな差が見られないことが見て取れる。

①の表を見ると、日常生活であろうと社会生活であろうと「你好」の使用がA、Bどちらも項目6、7に集中しているのに対して、「叫人(喊人)」発話はほぼAの日常生活上の関係に集中しており、血縁による親族関係1、2、および親族称謂を応用して呼び合うであろう項目6に数が集中している。

特徴的なのは全くの初対面7-aであるが、突然の来訪者などにその場で親族称謂を用いて呼びかけたり(女:“喂,我说你们这个公司谁负责呀?” 伟业“哎,大妈。(と、返事をしてから、奥から出てきて)是我”女:“是你呀”伟业“什么事?【来・6】)、紹介による初対面でも周囲の人間関係がはっきりわかっていないときに紹介者にならって呼びかける(潤善:“不用了,

容姨是我們自己人，不用給紅包的” 小芝（丁寧に）：“容姨” 容姨：…（笑顔で頷く）【真Ⅲ・17】）などのあいさつ場面がみられた。

また、②の表Bの2-dが多いのは上司が入ってきたときに部下にあたる職員が上司を見て上

②長幼の序を考慮に入れた対比

A. 日常生活	Jiaoren	Nihao
1-a	38	0
1-b	6	0
1-c	1	0
2-a	38	2
2-b	6	0
2-c	0	0
3-	3	2
4-	2	1
5-a	14	0
5-b	4	1
5-c	1	1
6-a	26	7
6-b	8	9
6-c	5	5
7-a	13	6
7-b	0	11
7-c	0	5
合計	165	50

B. 社会生活	Jiaoren	Nihao
1-d	2	2
1-e	2	1
2-d	4	2
2-e	0	1
3-d	1	0
3-e	0	0
4-d	3	4
4-e	0	2
5-d	1	0
5-e	0	0
6-d	7	13
6-e	1	10
7-e	6	13
7-d	3	7
合計	30	55

司の役職名を呼ぶ用例が多いからだと考えられる。例えば【貧・10】では、課長が入って来たときに複数の職員が口々に「科长」と声をかける場面が見られたが、一度に複数の発話者が存在するので、必然的にその数が多くなる。6-dと7-dが多いのも、特に両者間を行き来する金銭などが目に見えるので、比較的力関係をはっきりしているせいだと考えられる。また、この関係で紹介者が介在する初対面の状況下では、紹介される人物双方が互いの名前を確認しあうような形で相手の名前を復唱しながら握手するという映画『項羽と劉邦』の結拜のシーン⑬さながらの場面が見られ(ex:李標炳(あだ名は又燒炳と言う)という男性が梁友というお爺さんの噂を聞きつけて訪ねていった時に、李標炳；“您就是梁伯，是吧？”，梁友；“你是…？”，李標炳；“我是又燒炳”，梁友；“喔，炳哥！”【真Ⅰ・31】)、更に金銭的な利害関係がもちつもたれつの関係で且つ取引関係での付き合いが長い場合、名前に敬称を付した称呼や社会称谓よりも親族称呼を使用する例が見られた。

また、①の表A 3, 4とB 3, 5の数値が共に少ないのは彭(2000)の対人メタファーの文脈条件に関する解説⑭と張(1999)⑮に等しい所以が考えられる。

仮にA, Bの項目を心情面での好悪や親疎を計上せず、顔を合わせる頻度を親しさの基準と

した場合、

A.  $1 > 2 > 3, 4, 5 > 6 > 7$

B.  $1 > 2, 3 > 4, 5 > 6, 7$

の順で親しさ傾斜が出来上がるとすれば、「叫人（喊人）」発話は日常生活上のより親しい関係の目上の対象者に、また「你好」は日常生活上であれば社会生活上であれ、より疎い関係において多用される傾向があると言えそうである。

## V まとめと今後の課題

普通にあいさつが行われる人間関係には発話者と対象者の間に何らかの配慮（待遇・ポライトネス）が存在する。たとえば普通に上下関係だけに留意するとするならば好むと好まざるとに関わらず、目下から目上に対しては「敬意」という配慮が存在する事になるが、日本語の環境にあっても中国語の環境にあっても、たとえただの上下関係であっても日常のさまざまな要素が加わって人間関係（待遇関係）が築かれていると考えられる。この点から見て、以上のⅠ～Ⅲまでで、客観的にではあるが見出された「叫人（喊人）」発話すなわち親族称呼や社会称呼の応用によるあいさつは、厳格な家族制度を根幹にもつ中国社会にとっては非常に理にかなったものであると言えよう。

張(1999)によれば「あいさつ語」を大きくひと括りにしてみた場合、知らせ系要請系の言語行為と詠嘆系希求系の言語行為の間にあり、その両方の特徴を持つものだという。また、安井(2000)はこのような中国語における称呼の応用があいさつとして足ることについて「中国語では、“回来了！”“起来了！”などのように具体的な意味を持つ形式や、相手の名前や親族の呼称があいさつことばとして用いられたりする。これは「帰った」「起きた」或いは「張先生」などと言ったコトやモノを指示する表現形式が交話機能をも担い、且つそのことが社会的にも認知されているということである」、すなわち個人の名前とただの身分名称でしかない親族称谓とが交話的機能を持ち得るが故にあいさつ語とみなすことができるということであろう。更に安井(2000)は、「ここでいう交話機能は情報の伝達を目的としているのではなく、コミュニケーション保持のためのものである。例えば電話での「もしもし」は相手とのコミュニケーションが通じているかどうかの確認であり、これを交話機能と呼ぶ」⑩としている。

しかし、本論でここまでに見出された「叫人（喊人）」発話の特徴的な面として挙げられる「話しかけるための発話ではない」、「必ずしも対象の反応を期待しない」という点において、あいさつに運用される称呼は単純に交話的機能を持つことばとは異質なものであることが言えるのではないだろうか。例えば言葉ではなく行為そのものである「会釈」は、何も日本だけのもので

はなく、軽く頭を下げるその程度の差こそあっても、本論で用いたビデオ資料の中でも度々「会釈」と見られるような行為が見られており、このような行為的なあいさつまで交話的機能を持ち得るが故にあいさつであると判定できるとするのと同様に、交話的機能の部分を主に評価するのは少し無理があるように見受けられる。

また称呼の地域的頒布や言語史的研究、また称谓語に見る家族規範の歴史的変遷を追う論文は数多いが、血縁関係にない人間関係において親族称谓が運用される特質については、単に所謂ウチとソトの価値観（严耀中(1985)）、即ち「自己人」と「外人」の考え方に基づいて周囲の人間の分類をなす記号的意味だけでなく、その称呼が示す親族内での「分」や「発言力」、あるいは「五服礼」などに見られる服喪の「分」などが「言語避讳」<sup>⑰</sup>や長幼の序などの観念に従って転用されていることは想像に難くない。但し、親族称谓の転用についてはこれで説明が付くかに見えるが、一見してビデオ資料の中から抽出された例中に特に「目上⇒目下」「同輩⇔同輩」に見られた個人名を運用している点では上で述べた「言語避讳」（およそどのような言語にもあると言われ、一般的には人称代名詞の「你、我」で論じられることが多い<sup>⑱</sup>）の概念と衝突してしまうため、説明が付かないように思われる。

親族称谓及び名前があいさつとして運用されるにあたり、この二つ矛盾点についてはいくつかの可能性が考えられる。

1. 彭(2000)の「伝統的な社会において、身分上、親族関係上の下位者が上位者に対して、“拜(おがむ)”，“伏(ふせる)”などの低姿勢を示す礼行為を取ることが求められていた。(中略)言語表現において下位者が上位者に対して何かをしたと表現する場合実際低姿勢の礼行為を伴わなくても、表現上それらの概念に言及することにより、その行為が行われた場合と同じ対人効果が生まれる。」に見られるような、対象者を発話者の心理部分で、ある親族称谓および個人名としての地位を位置付けているという指向的機能が主にあいさつとしての効果を実現している、と考える。
2. 孔祥林の『孔子家の家訓』<sup>⑲</sup>の「あるとき曲阜の町を祖父と歩いていると後ろから「爺爺」と声がする。(中略)振り返ると、杖をついた七十歳ほどの老人が、小さな子供の私に向かって腰を深々と曲げてお辞儀している。一緒にいる祖父に挨拶しているのだろうと思い、祖父を見ると、「お前に挨拶しているのだから、返事なさい」と言われた」に見るような、親族称呼や名前の後に「お辞儀」もしくは「你好」や「请安」などの形式的な行為や言辞がもともと付けなければならなかったと想定した上で、それらの行為や言辞が時代の推移と共に単純に省略されたのではないか、と考える。
3. 「姓○的」(○部分には姓が入る)という相手を罵る語気を持つ表現から逆説的にみて、大きな集団の中で個人を認め、発話者にとってその姓名をもつ人物は対象者一個人のみであり、唯一無二の存在であると言辞することであいさつとしてのポライトネスを明示している、と考え

る。

本論で様々な用例を解釈してきた上では、上記1. 2. 3. の仮説の中で1の説が最も有力であり、二次的に3の説も有力だと考えられる。先ず、直示忌避(「言語避讳」)の点については、以下の用例が有力な見解を促すものと考えられる。

(23) 楽楽(曾孫)が一人で不機嫌に座っている曾祖母に、焼きあがったばかりの写真を手に話しかける：

楽楽；“太婆，怎麼每張照片都不笑？”，(楽楽の母慌てて飛んでいき)楽楽の母；“楽楽，不准這麼沒規矩！”(と言って子供を連れて行く) 【真I・7】

この例文で示唆されていると受け取ることができるのは、名称や定形型の言辞に対する忌避ではなく、「年長者の行動の結果」への直示忌避である。これを基準にして「你好」や「请安」のような定形型ではないあいさつ言葉、すなわち、安井(2000)が述べるところの“「回来了！」“起来了！”などのように具体的な意味を持つ形式」のあいさつや『エッセンシャル中国語 中級編』(中国語センター)で言うところの「中国語では意味のない質問を挨拶の言葉として使う(例えば注⑩の6の下線部)」をみると、具体的に「どこから帰ってきたのか(又はなぜ帰ってきたのか)」「何のために今起きたのか(又はなぜ今まで寝ていたのか)」「どこへ出かけるのか(又は何をしにでかけるのか)」を尋ねていない点において、相手の行動を認める(容認・尊重)のみでその後の結果については追及しないというポライトネスが働いていると考えることができる。

また、ビデオ資料の中の『真情』では物語の主核をなす大家族成員とそれぞれ別の場所に出会い一家全体の友人となった馮振邦という名の人物が登場するが、当初この人物は一家の最年長者であるおじいさんを「梁伯」と呼び、その次世代である主を「炳叔」と呼んでいるが、後にその一家の第三世代の娘と恋人同士になったところから「梁伯」は娘にならって「外公」と呼びかえ、「炳叔」は「伯父」に呼びかえている。また、『貧嘴張大民的幸福生活』では主人公の妹の恋人がはじめて家を訪ねて来たときに「这是我妈。叫大妈，叫大婶都行。要我看早晚的事，你就叫妈」と言って、妹の恋人に「妈」と呼ばせる。更に『老房有喜』では、吴有利という登場人物が、周囲登場人物の好悪や利害の感情の変遷に従って「吴先生⇒姓吴的⇒吴秘书⇒吴有利⇒有利」まさに「丁重⇒罵詈⇒尊重⇒普通⇒親しみ」へと呼びかえられていく。そして『罪証』でも一度は友人となった警察官と大企業社長がそれぞれ心情の推移に従って「罗总⇒姓罗的」，「丁队⇒小丁⇒姓丁的」と呼びかえる。

これら呼びかえの例にみても解るとおり、対象者に対するポライトネスは心理的な好悪や尊卑の感情だけでなく、称谓語そのものがもち得る指向機能によるものだと考えられる。各親族称谓なり、名の一部に何かを付け加える称谓なり、姓名の直示なりの心理面での格付けは、発話者各人各様の価値観があり容易に計ることはできない。しかし、血縁関係にない年長者を呼ぶときの、

対象者の見た目の年齢からだけでない判断による呼び分け(上記『真情』『贫嘴张大民的幸福生活』にみられる)にみるように、各々の称谓語が識別記号や対象者に対する心情の明示であるばかりでなく、何らかの指向を象徴する言葉であると言える。

この様な称呼(記号表現)→指向(記号内容)→対象(指向対象)の三角関係(オグデンC.K.OgdenとリチャーズI.A.Richardsの記号論的三角形に類似)は、正に林語堂(1935)<sup>②</sup>の解説するところの中国の家族制度を支配している社会哲学、儒学の「名分学説」の理想と相似する。すなわち、称呼＝「名」「名称」「名義」(『语言与认识』では指示詞)、指向＝「分」「本分」「義務」(自己の行為をコントロールするための責任、荀子の名実論で言えば約定にあたる、『语言与认识』では指称)、対象＝「人」(名実論で言えば実、『语言与认识』では被指示者)というようにそれぞれ相当すると考えられる。この面から見ても、称呼は交話的機能以前に指向機能に代表される語彙であるとみなすことができ、この機能こそが「叫人(喊人)」発話を「叫」すること以上にあいさつに足るものとしているといえるのではないだろうか。

以上の述べてきた点が「叫人(喊人)」発話のあいさつに相当するに足る所以であると考えられるが、本論ではまだまだ論拠の不充分な点が残されており、それらについては今後の課題としていき、また実際にネイティヴスピーカーが「叫人(喊人)」発話をする際にどのような心情をこめるのか、更に晩輩から「叫人(喊人)」発話されなかった時にどのような心情を持つのかについても目を向け、その他の定形的なあいさつ言葉にも目を向けて生きたいと考えている。

## 凡例

本論中に記載した(1)～(23)の用例は、それぞれ字幕を簡体字は簡体字で、繁体字は繁体字でそのままに記載し、補記・修正については字幕上に記載されていない「？」や「！」の補記と、人名などの固有名詞にそれと判りやすくするために下線を付記するのみに留めた。

## 注

- ① 社会称谓：この用語の示す範疇は、諸研究者によって「親族称谓を非親族に応用した称谓」も含めるか含めないかにおいてまちまちであるが、ここでは簡単に親族称谓(非親族に対する応用も含む)に対して、社会的地位や職業名などを応用した称谓、旧時代の身分称呼(太太、大爷、少奶奶等)などを社会的称谓とする。
- ② 木村(1996)〔注⑧参照〕や台湾の電子小説(インターネット上で読める小説)『點名要妳當老婆』では動詞「叫」にあたる部分に「喊」という動詞が使われており、どちらも同様の意味であると考えられる。

『點名要妳當老婆』 靳 著2000(簡体字版)：

- 他只喊了长辈，小的那一个，他只速快地瞄了一眼，便一副视若无睹的样子。(彼は年長者にだけ呼びかけ、年下のその子を、ただチラッとにらむと、もう見て見ぬふりをした)
- “他呀，就是那张嘴不甜，见了人也不喊，让你们见笑了。(あの子ったら本当に口べたで、人に会っても呼びかけないし、あなた方に笑われてしまうわね)”
- ‘韩妈妈’尹仲堯从韩家后门摸了进来，喊了韩母一声。(‘韓のお母さん’尹仲堯は韓家の裏口から手探りで入ってくると韓母に一言呼びかけた)”
- ‘尹妈妈’她无表情地喊了一声之后，就跟父母说她有事要出去了(‘尹のお母さん’彼女は無表情で一言よびかけた後、すぐに父母に用があって出かけると言った)”

③ 真情 A KINDRED SPIRIT	I ~ III 120話	台湾・香港 (国語版)	1997~
廉政行動組	全25話	台湾・香港 (国語版)	1998年
大鬧廣昌隆	全20話	台湾・香港 (国語版)	1999年
十個愛情故事	全10話	台湾・香港 (国語版)	1999年
老房有喜	全25話	中国	1998年
来来往往	全18話	中国	1999年
贫嘴张大民的幸福生活	全20話	中国	1999年
罪证	全20話	中国	1999年

※本文中の用例は字幕に準拠し、簡体字のものは簡体字で、繁体字は繁体字で記載。なお、本文中表記は【真 I・15】のように【タイトルの頭字・回数 (話目)】とする

④ 角川中国語大辞典	角川書店
中日大辞典	大修館書店
中日辞典	講談社
簡約中国語辞典	光生社
中日辞典	小学館
岩波中国語辞典	岩波書店
新华词典	商务印书馆
现代汉语词典修定本	商务印书馆
汉语大词典	汉语大词典出版社
東方國語辭典	臺灣東方出版社(臺灣)
辭彙	文化圖書公司(臺灣)
新學友國語辭典	新學友書局(臺灣)

- ⑤ 『日語口語辭典にほんごこうごじてん』 萬人出版社1999年  
 [ 04. 叫孩子打招呼 / 子供に挨拶させる ] :  
 太郎、おばさんに挨拶して。 / 太郎，叫阿姨。



- ⑥ 原文 林語堂『京華烟云』1996作家出版社；

木兰一进来，祖母就哈哈大笑着欢迎她说：“孩子，来见你舅母，她从乡下来的。”

（中略）她先走到卧榻前向祖母行礼，然后在向老舅妈行礼。

曾太太说：“这是你舅妈。以前没见过。”

锦儿随着用茶盘端来了一杯冰糖茶。木兰接过来，递给这位新舅妈。

木兰正式叫了一声“舅妈”。

日本語翻訳版『北京好日』芙蓉書房出版；

木蘭が入って来ると祖母はにこにこしながらこう言った。「木蘭や、こっちに来て田舎からいらした伯母様にご挨拶なさいな」

（中略）彼女は長椅子のところに進み、先ず祖母にそれから例の伯母様という老婦人に挨拶した。

「この方はあなたが初めてお会いする伯母様ですよ。私の従姉にあたる人ですわ」と曾夫人が言った。

錦児がお盆にお茶と糖菓をのせて木蘭の後に従った。そして木蘭はそれを受け取り、初対面の伯母様にそれをすすめた。「伯母様」こう言って木蘭は礼儀正しく挨拶した。

※双方共に原文ママ

- ⑦ ●呼びかける挨拶：向こうから張先生がやってきました。こちらは四、五人輪になって立ち話です。張先生に特に用事があるわけでもありません。でも張先生を無視するのもおかしいでしょう。そんなときにはちょっと会釈しながら一言、

張老師！ Zhāng lǎo shī!（張先生！）

と声をかけます。友達になら“小王！” Xiǎowáng!とか“老李！” Lǎo-Lǐ!と言います。

『あ、知ってる中国語——常用ファイル50』相原茂 2000 東方書店より

- ⑧ 第7章中国語のパフォーマンス ◆「ニー・ハオ」と言わない同僚たち：相手の事柄ではなくて、まさに相手そのものに言及する方法もあります。“王老师！”（王先生！）、“林师傅！”（林さん！）、“小李！”（李くん！）のように、相手の名前を呼びかけるのがそれです。これは時と場所を選ばず、簡潔で、しかも親しみのこもった挨拶として広く活用されるものです。

◆“阿姨”（おばさん）とお呼び！：日本では来客のあった折など、親が子供に「『こんにちは！』は？」などと挨拶を促しますが中国の親は“喊叔叔。”（「おじさん」とおっしゃい）とか“喊阿姨。”（「おばさん」とおっしゃい）などと親族称呼で呼びかけるよう促します。“喊hān”とは「呼びかける」という動詞です。

『中国語ははじめの一步』木村英樹 1996 ちくま新書より

- ⑨ 安井二美子「中国語指示詞の交話機能について」『月刊中国語』'00.11 内山書店 参照。

⑩ 対象が他者との対話中などの場合にこの種の反応が多く見られた。またその他の返答例として本文中例示以外に以下（下線部参照）が挙げられる。

1. 云芳が仕事から帰宅してくると四合院の門の傍で父親（実父）が将棋をさしている。

云芳：爸，我回来了。（この爸は後の我回来了があるので集計には入っていない）李父：回来了。

そのまま婚家の方に急いでいくと途中の公共の水道のところで母親（実母）が野菜を洗っている。

云芳：妈。（と通り過ぎながら声をかける）李母：云芳回来了。

母親の声を背中に婚家に帰ると、家に入る前に家の外側の台所で料理をしている義妹たちに声をかける。

云芳：大雨，大雪。 大雪：嫂子回来了。 【貧・3】

2. 大民：哟，刘大爷！（通りすぎる） 刘：下班啦。 【貧・4】

3. 大民：哎哟，刘大爷（通りすぎる）刘：下啦。大民：哎，下啦。 【貧・4】

4. 少しボケた母親：老五。 老五：哎，妈。 【貧・19】

5. 刑事が二人、殺された少女の家から出てくると少女の妹が帰ってくる。

妹：叔叔。（通り過ぎようとする） 刑事：怎么？ 放学了？ 【罪・3】

6. 警察署の階段で、警察官A：哎，李处。 李：哎，出去啊！ 警官A（立ち止まらずに）：哎。

7. 同様に警察署の階段で、制服の警官：丁队长。 丁：哎。と言ってすれ違う 【罪・1】

⑪ 「你好」を一般的であるとしつつも、中国人ネイティブにおいて常用とする説、しない説については、中国語中級テキストなどに解説があることがあるが、常用非常用は記載されないままに『比較言語行為論』張勤 好文出版では「最も普通のあいさつの表現」とあるのに対し『エッセンシャル中国語 中級編』（中国語センター）では「あくまで外国人に使う挨拶用の言葉である」とあり、同じ中国人が書いたものでも意見の分かれるところにあると考えられる。ただし、任意で中国語初級テキスト20冊についてみたところでは中国人の著したものと日本人の著したものとにかかわらず100%の確立で「你好」が出てきているところから、ここでは個人的な見解は考慮に入れず「一般的なあいさつ」とした。

⑫ 本来、宗親，外親，内親は、中国の家族史や家族制度上区別されるべきであるが、ここで扱う資料の内容上では、運用される呼称以外にその区別が明確ではなかったため、日常顔を合わせる頻度の方を重視し、このような分類となっている。

⑬ 映画『項羽と劉邦』で現代中国人が解釈するところの項羽と劉邦の結拜のシーンで、双方互いに「好兄弟！」と「呼び」合っている。勿論ここで資料としたテキストではそれほど形式張った勢いのある「呼び」方ではない。

- ⑭ 「人間関係は敬辞使用を動機付ける最も中心的な役割を果たす文脈条件である。人間関係は様々な角度から規定できるが、敬辞使用と直接かかわるものとしては、社会的身分の上下関係、年齢における長幼関係、社会的距離における親疎関係などが上げられる。(中略)一般的な傾向として、家族などの身内の人間、親しい間柄の人間同士の会話に敬辞の使用が少なく、客など関係の遠い外の人間との会話に敬辞が多用される。」

『近代中国語の敬辞システム』彭国躍 2000白帝社より

- ⑮ 「あいさつ系の言語グループ(個々のあいさつではない)は知らせ系要請系の言語行為と詠嘆系希求系の言語行為の間にあると考えられ、そのどちらの特徴をももつものである」と述べ、「你好!」についての解説では「述定の形式なので、まさしく情報提供の形をとっており、遂行者への相手への関心、相手と関係を保ちたい、またはこれから何か話を続けたいという心的な態度を、間接的ではあるが知らせようとする発話である」とし、また「あいさつ系の言語行為は多くの場合、遂行者の心的態度を伝えてそれで終わらせるための行為ではない。相手からそれ相応の態度を示してもらえて初めて相手とある種のコンタクトができ、セットとしてのあいさつが完成されるものであると考えるのが一般的であろう。この意味で言うと、「你好」は相手からの答えを要請するものでもであると見ることができるので、あいさつ系の言語行為は要請系の言語行為の特徴を持つと言えよう」、更に「ところがあいさつは種々の言語行為の中で最も習慣的なものとして日常の言語生活に密接する行為であって、最初の目的が人間関係を築くことにあるとは言え、ある人間関係においてはそれが風化されている面もある。例えば仲のよい友人との間や家族の間においてはあいさつが形式化され、いわば遂行者の自己満足的な行為、言い換えれば作用が遂行者の内に解消される行為にほかならないである。この意味で言えば、あいさつ系の言語行為は感情表出的な一面をもつ行為とすることができる。」とある。

『比較言語行為論』張勤 1999好文出版

ここで張が言う「知らせ系要請系の言語行為」と「詠嘆系希求系の言語行為」とは、おそらく、それぞれ「交話的機能(話しかけの機能)及び働きかけの機能」と「表現的機能」のことだと考えられる。

- ⑯ 交話機能(交話的機能or話しかけの機能)

交話機能(別名・話しかけの機能)とは「コミュニケーションの行為が話し手と受け手との間の接触の確保、あるいは維持を目的とする場合、そのもととなることばの機能」であり、電話で用いられる「もしもし」や「聞こえますか」というようなことばや会話への導入の文句である「いい天気ですね」を主たる目的とする発話の機能を〈話しかけによる交感〉という。

『ラールス言語学用語辞典』1980 大修館書店

- ⑰ 言語避讳

避讳, 指在语言交往或表达(包括书面的和口头的)中尽量避免直接说出或写出对方以及自

己和对方所敬重之人的姓名，以示礼貌。(以下省略)

『中國儀禮大辭典』 1992 中國人民大學出版社

⑱ 三輪(2000)では、名前呼称の忌避と直示忌避とをポライトネスの一般則としている。

『人称詞と敬語——言語倫理的考察』 三輪正 2000 人文書院

⑲ 『孔子家の家訓』 孔祥林 1993 文芸春秋

⑳ 『中国=思想と文化』 鋤柄治郎訳 1999 講談社学術文庫

原題《My Country and My people》1935

#### 参考論文(注に記載されているものを除く)

荣晶「汉语称呼语的使用及其相关因素」《思想战线》1994年第2期

潘文／刘丹青「亲属称谓在非亲属交际中的运用」《南京师大学报(社会科学版)》1994年第2期

徐耿华「中国亲属称谓的形成、增衍和特征」《贵州文史丛刊》1993年—1

神田千冬「《紅樓夢》における親族呼称と身分呼称(上)」《中国語研究》1987年春季号

趙莉萍「中国家族呼称の語構成とその背景—宗族社会構造を中心に—」

《阪南論集》人文・自然科学編1992年Vol.27 No.3

#### 参考文献(注に記載されているものを除く)

『中国宗教与生存哲学』 严耀中 1985 学林出版社

『语言与认识』 王晓升 1995 中国人民大学出版社

『現代汉语八百词增订本』 吕叔湘 1999 商务印书馆

『荀子』 内山俊彦 1999 講談社学術文庫